

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2008 年度 小委員会活動 自己評価 (最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本小委員会で、環境振動性能設計法を構築するための問題点の模索、抽出を行い、その足がかりとなるための設計フローの構築を行った。 2. 設計フローの判断に関わる詳細項目の整理及び例題の検討を行い、第 27 回環境振動シンポジウムにて成果報告を実施した。 3. ハンドブック刊行に向けた内容の目次作成を行った。 <p>1～3の結果より、環境振動性能設計法を構築していくための情報は整いつつあり、当初設置目的は達成しているとみなせる。今後は、ハンドブックの刊行に合わせて内容の充実を図ることで、環境振動性能設計法の構築を行う。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。